

令和7年度

北杜市立小淵沢中学校

自己評価 生徒・保護者アンケート 学校関係者評価 報告書



令和7年度 学校評価（生徒，保護者，教職員）

1 目的

- ①学校の活性化
- ②開かれた学校づくり
- ③信頼される学校の構築
- ④教育の質の向上

生徒：より良い教育で，より良い生徒の育成と自己実現
職員：全職員が生き生きと教育に打ち込み，やりがいのある職場づくり

2 評価の観点

- ①学校そのものを評価する。【経営方針】
- ②学校経営・組織運営の方法を評価する。
- ③教育活動の内容・方法を評価する。【教育課程・指導計画・指導方法など】
- ④教育活動の成果を評価する。

特に③④に重きを置き，自覚できるような成果が得られるようにする。

3 評価の方法

- ① 生徒・保護者・教職員ともに、アンケートフォームにて行う。
- ② 評価の選択肢は4段階とする。

4 今年度の取り組み計画

- 4月 学校経営方針の確認 学校評価の意義・計画・項目の確認
- 5月 学校評価委員会の編成（校長・教頭・教務）
- 6月 学校運営協議会委員との意見交換
- 6月 学校経営の基本方針など、評価観点の「お知らせ」
- 12月 生徒・保護者アンケート，教職員自己評価の実施
- 1月 アンケート結果に基づく改善策に対する方針や法則の検討
- 2月 自己評価書の作成
- 2月 学校関係者評価委員会（兼 第2回学校運営協議会）開催
学校関係者評価書の作成 →自己評価書と併せて，市教委に提出
アンケート結果公表
改善策をもとに，次年度の学校経営方針とグランドデザインの作成

5 学校評価の法的根拠

○学校教育法施行規則

- 第66条 小学校は，当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について，自ら評価を行い，その結果を公表するものとする。
- 2 前項の評価を行うに当たっては，小学校は，その実情に応じ，適切な項目を設定して行うものとする。
- 第67条 小学校は，前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の生徒の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い，その結果を公表するよう努めるものとする。
- 第68条 小学校は，第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を，当該小学校の設置者に報告するものとする。

学校評価アンケート

4…そう思う。 3…まあまあそう思う（一部改善の必要あり）。 2…あまりそう思わない（改善の必要あり）。 1…そう思わない（大いに改善が必要）。

項目 No	生徒	R7平均	保護者	R7平均	教職員	R7平均	考察
学校生活	① あなたは、学校生活が楽しく、充実していますか。	3.6	お父さんは、楽しく、充実した学校生活を送っていると思いますか。	3.3	生徒は、楽しく、充実した学校生活を送っていると思う。	3.2	学校生活
	② いじめのない安心して生活できる学校になっていると思いますか。	3.5	いじめなどのない安心して生活できる学校づくりができていると思いますか。	3.1	常にいじめのない学級づくりや学校づくりを実践している。	3.6	学級経営 生徒・職員と保護者で0.5ポイントの差：内部の人間（生徒・職員）は安心を感じているが、外側から見守る保護者は若干の不安を感じているのではない。
	③ あなたはお互いの違いを理解し、良さを認め合い、共感的な姿勢で、他者と接することを心がけていますか。	3.6	お父さんは、お互いの違いを理解し、良さを認め合い、共感的な姿勢で、他者と接することを心がけていますか。	3.2	生徒が、お互いの違いを理解し、良さを認め合い、共感的な姿勢で、他者と接する気持ちを養うように指導している。	3.4	多様性
	④ 朝読書は、心を豊かにし、自分の世界を広げる充実した活動となっていますか。	3.5	朝読書などの読書活動を通して、お父さんは豊かな心を育んでいると思いますか。	3.1	読書活動は充実していて、豊かな心を育むための活動となっている。	3.5	読書
	⑤ あなたは委員会や部活動などの生徒会活動に意欲的に取り組んでいますか。	3.6	委員会や部活動などの生徒会活動は充実していると思いますか。	3.0	生徒会活動について、生徒が自分たちで創り上げる活動になるよう、適切な支援指導を行っている。	3.2	自治活動 生徒と保護者で0.6ポイントの差：生徒は内面の評価、保護者は客観的な評価、生徒が意欲的に取り組んでいても、家庭でその様子を話さなかったり、疲労感が目立っていたりすると、4そう思うをつけるのは難しいかもしれない。職員3.2→改善の余地がありという雰囲気の影響か。
	⑥ 体育祭や青雲祭、強歩大会などの学校行事は充実した活動になっていると思いますか。	3.8	お父さんは体育祭や青雲祭、強歩大会などの学校行事に意欲的に取り組んでいますか。	3.4	学校行事は生徒の自己有用感、自己存在感、協調性を育み、達成感を感じるものになっている。	3.4	学校行事
授業・学習	① あなたは、授業中、集中して学習に取り組んでいますか。	3.5	学校の授業は落ち着いた雰囲気の中で行われていると思いますか。	3.0	常に落ち着いた雰囲気の中で学習できる、学習規律の確立を心がけている。	3.3	授業規律 生徒と保護者で0.5ポイントの差：生徒は主観的評価（自分なりに集中している）、保護者は授業参観や家庭での子による発言から判断。
	② あなたは、授業で学んだことが理解できていると思いますか。	3.4	お父さんは、授業で学んだことが理解できていると思いますか。	2.8	生徒は学習内容を理解できている。	2.9	学習理解 学力向上 生徒と保護者・職員で0.6ポイントの差：生徒はわかったと思っている（わかったつもり）が保護者・職員は定着が甘いと評価。
	③ 先生はめあてを示し、わかりやすく丁寧な授業をしていますか。	3.6	学校は、学力や学習意欲を高めるための工夫をしていると思いますか。	3.0	わかりやすい授業づくりのための教材研究、指導方法の工夫改善を行っている。	3.5	わかりやすい授業 生徒・職員と保護者で0.6ポイントの差：教室内の授業実践が家庭に十分に可視化されていないこと（起因？保護者「学校は…工夫している」の評価は、生徒の学力を基準としてと考えると考えられる。
	④ あなたは自分に合った学習方法で学習していますか。	3.3	お父さんは自分に合った学習方法で学習していると思いますか。	2.8	生徒がそれぞれに合った学習方法で学習する機会を授業内で設定している。	3.2	個別最適な学び 生徒と保護者・職員で0.5ポイントの差：生徒は内面の評価、保護者は客観的な評価。
	⑤ あなたは授業等で、他の意見を知ったり、自分の考えを広げたり深めたりしていますか。	3.4	お父さんは他者の意見等から学ぶ姿勢を持っていますか。	3.1	生徒が他の意見を知ったり、自分の考えを広げたり深めたりする機会を授業内で設定している。	3.2	協働的な学び
	⑥ あなたは、家庭で毎日勉強していますか。	2.9	お父さんは、家庭で毎日勉強していますか。	2.6	授業と家庭学習の有機的なつながりを意識した指導をしている。	3.0	家庭学習 家庭学習に課題あり。実際に家庭学習をしていない、または傾向が強い。
	⑦ あなたは自分の良さや課題を知り、自分に合った進路や職業について考えることができていると思いますか。	3.3	お父さんは自分の良さや課題を知り、自分に合った進路や職業について考えることができていると思いますか。	2.8	キャリアパスポートなどを活用して、生徒が自分の良さや課題を知り、自分に合った進路や職業について考える指導をしている。	3.1	キャリア教育 生徒と保護者で0.5ポイントの差：「考える」の定義の差か。「家で勉強しない」傾向が「進路を考えているとは思えない」という保護者の回答につながっているのではない。
	⑧ 一人一台端末などを効果的に活用して、学習に取り組んでいますか。	3.6	お父さんは一人一台端末などを効果的に活用して、学習に取り組んでいますか。	2.7	生徒が一人一台端末などを効果的に活用して学習に取り組むよう、工夫した授業実践に取り組んでいる。	3.3	ICT 生徒と保護者で0.9ポイントの差：保護者の感覚「遊んでいるだけ」「ICT活用による効果は本当にある？」などが考えられる。また実際に活用している場面を見ている可能性もある。ICT活用の目的や成果が家庭に伝わっていない。
規範意識・安全・連携	① あなたは、気持ちのよいあいさつをしたり、ほかの人への意思表示をはっきりしていますか。	3.5	お父さんは、家庭や地域の方々とのあいさつを交わしたり、他者への意思表示をはっきりしていますか。	3.1	生徒は場に応じたあいさつや意思表示をしている。	2.7	あいさつ 他者意識 生徒と職員で0.8ポイントの差：想定される「あいさつ」や「意思表示」の求める水準や意識の違いか。
	② あなたは清掃活動や整理整頓などをしっかりとしていますか。	3.5	お父さんは清掃や整理整頓などをしっかりとしていますか。	2.5	整理整頓や清掃の指導を行い、よりよい学習環境作りに努めている。	3.4	自己統制 環境美化 生徒・職員と保護者で1.0ポイントの差：学校内の姿と家庭での姿が異なる。学校という枠組みの中で（指導されていれば）は動けるが、自発的な習慣にはなっていないことの表れか。また、職員への質問内容が「指導している」という文言。「生徒は清掃している」などにするとポイントは低くなると思われる。
	③ あなたは健康管理や体力向上に努めていますか。	3.6	お父さんは健康管理や体力向上に努めていますか。	3.1	生徒が健康管理や体力向上を意識した生活ができるよう指導している。	3.2	保健体育 生徒と保護者（ほぼ職員も）で0.5ポイントの差：生徒は授業や部活動で運動して、自分なりに整った生活を送っていれば肯定的な回答か。保護者は夜更かし、食生活など家庭での自己管理をみているのでこのポイントになると考える。
	④ あなたは避難訓練に真剣に参加したり、交通ルールを守ったりなど、自分の身を自分で守るよう心がけていますか。	3.7	学校は防災や交通安全等、生徒の安全を確保する取り組みを行っていると思いますか。	3.3	避難訓練や交通安全教室等により、生徒が自分の身を自分で守る意識を涵養している。	3.2	安全教育
	⑤ あなたは、学校のきまりや約束、社会のルールやマナーを守っていますか。	3.7	お父さんは学校生活のきまりや約束、社会のルールやマナーを守っていますか。	3.3	きまりを守るなど生徒の規範意識を育む指導に取り組んでいる。	3.4	規範意識
	⑥ あなたには困った時に相談できる先生がいますか。	3.2	学校は、生徒や保護者の相談や問い合わせに応じていると思いますか。	3.3	生徒や保護者の相談に丁寧に対応している。	3.7	相談体制 全体的に低くはないが、生徒（保護者）と職員で0.5ポイント差：生徒回答に1・2が相対的に高い。職員側は丁寧な相談に乗っていても、生徒（保護者）には届いていないという雰囲気と考えられる。今後も丁寧な対応を心がけるとともに、学校側の意識としては職員一人が対応するのではなく、フォローも含めて学校全体で対応していくという意識を持つことが大切か。生徒への質問も「先生がいますか→学校は困ったときに対応してくれますか」などに変わってよいのではない。
	⑦ あなたは、学校からのたよりなどをしっかりと読んでいますか。	3.2	学校の各種たよりから教育活動の様子を知ることができますか。	3.4	各種たより等により学校生活の様子を家庭に伝えていく。	3.6	情報発信
	⑧ あなたは、地域の環境や地域の人から学ぶことができますか。	3.1	地域の環境や人材を活かした教育活動が行われていると思いますか。	3.1	学校は保護者や地域住民との連携を積極的に図っている。	3.4	地域連携
				本校の働き方改革は適切に進められ、働きやすい職場となっている。	3.4	働き方改革	
				本校は、自分の教育実践を進めることができ、働きがいのある職場となっている。	3.7	働き方改革	

小淵沢中学校 学校評価 教職員自己評価、生徒・保護者アンケート 結果分析

今年度、評価項目を、教職員・生徒・保護者の三者共通の内容にして、それぞれの意識や状況を比較対照しやすいように変更した。以下、その結果の分析となる。各項目の詳しい分析については、三者比較分析表、各アンケート結果表に記載した。以下は全体的な分析と今後の改善方策である。

成果としては、三者ともに学校生活や学校教育活動に肯定的な意見が多い。これは日頃のきめ細やかな指導や支援が浸透してきた結果であると考えられる。この結果をもとに、さらなる教育水準の向上を目指して、良さを認め、強みにし、課題を改善できるよう実際の教育活動に反映させることが大切である。

課題としては、大きく「学力定着」と「あいさつ・清掃」が挙げられる。学習について、生徒は授業を理解し、頑張っているという評価であるが、保護者からは、成績の向上が見られないので学習への満足度も低い。教職員も生徒の学力定着に課題があると感じている。また、生徒の家庭学習の状況も毎日取り組める生徒は少数である。これは、授業にはよく取り組んでいても学力が定着しない一因である。あいさつについては、生徒はしている意識が高いが、教職員からは、元気がない、相手意識が見られない、等の理由から、しっかりとあいさつしているという肯定意見につながらない。

それぞれの項目についての分析は以下の通りである。

項目1 学校生活について

すべての質問について、三者の評価ポイントは3.0以上であり、おおむね充実した学校生活となっていると考えられる。これは、生徒の前向きな気持ちと、保護者の支援、学校の支援や指導が良い形でつながり、意義ある教育活動が展開できていると捉えることができる。今後も、生徒が安全に学校生活を送り、安心して学習に取り組むことができる学校づくりを家庭や地域と連携して、教育活動を進めていきたい。

項目2「授業・学習」について

授業など学校教育活動に落ち着いて取り組むという雰囲気があることはアンケート結果からわかる。これは生徒個々の可能性を最大限に伸ばす点で必要な要素である。反面、**学力定着が課題**として挙げられる。三者の「学習理解」についての評価を見てみると、生徒3.4 保護者2.8 教職員2.9となっていて、0.5ポイント以上の乖離がある。これは、以下のような視点でそれぞれ評価しているのではと考える。

生徒： 「授業に参加している、ICT 端末も学習で活用している」という意識で評価している。

教職員： 日頃の授業での様子やテスト等の結果から、「知識が定着していない」という実感を持っていて、評価している。

保護者： 「テストの点数や家での学習に向かう姿」から評価している。

この比較から、生徒は「授業に参加している」という視点で回答し、またその段階では「授業内容を理解している」、「授業はわかる」という意識があると考えられる。保護者や教職員はテスト等の結果から学習内容の理解度を評価している。また家庭学習についても、生徒2.9、保護者2.6と高いポイントとはなっておらず、毎日取り組んでいる生徒は少ない

と感じる。宿題以外で何をどのようにするかわからないという昨今の傾向とスマホ利用で時間を取られる生活習慣の影響から、なかなか取り組めないのではないか。これは、全国的な課題が本校でも見られるともいえる。ICT 端末の活用もしてはいるが、保護者から見ると、学力向上という「目的」に結びついている実感がないのかもしれない。生徒の学力が向上するために、主体的対話的で深い学びの授業実現を目指した、個別最適な学びと協同的な学びの一体的充実を図る取り組みは今年度も進んでいるので、**授業と家庭学習の有機的なつながり**を今後も意識し、**学力定着につながる実践が必要**と考える。

項目3 「規範意識・安全・連携」について

ほとんどの質問について、三者の評価ポイントは3.0以上である。社会で自立して生きていくための土台が身につけてきていると感じることができる。「あいさつ・他者意識」の質問については、生徒3.5と教職員2.7と、0.8の乖離が見られた。これは以下のような理由が考えられる。

生徒：「（自分なりに）やっている」という主観的な満足が見られる。

教職員：「相手意識、真摯さ、意義・目的の理解」などを高めたい。

以上のように、生徒の「できた」のハードルが低く、社会や大人が求める「質の高い行動」との間にギャップがある。今年度、先生方の指導のもと、挨拶への意識化が図られてきたと感じる。生徒の「あいさつをした」という基準から、教職員が求める「**相手へ伝わるあいさつ**」へ**視点を移したい**。現状、学校という限定的な空間でのみ通用する生徒の「甘い自己評価」が、大人の視線（＝社会の視線）とのギャップを生んでいる。生徒指導と生徒会が連携して、「相手に届く相手に聞こえる声で、相手の方を向いてあいさつができる。」という内容を、取り組みをしながら、折に触れて生徒に伝え、振り返りをさせて、定着を図っていききたい。それと共に**意義や目的、必要性の理解も伝えていききたい**。清掃についても同じように捉えることができるかもしれない。学校で指導があれば取り組むが、家庭ではその様子が見られないという雰囲気がある。生徒自身の自律した行動に落とし込めるように家庭と連携しながら取り組んでいききたい。そのためにも、今年度校内研でも取り組んだ「生活の十か条」のさらなる活用も有効と考える。

まとめ

すべての生徒の可能性を伸ばし、生徒が安心して安全に学校生活を送るために、今回のアンケート結果をもとにしながら、教育活動の改善を図っていききたい。主には**学力向上をめざした取り組みと、あいさつや清掃など自分も周りも気持ちよく生活できるような行動を身に付けられる取り組みに重点を置きながら進めていく必要がある**と考える。それは生徒が自他ともにウェルビーングを感じられる生活環境につながっていくと思う。そしてその教育実践や生徒の様子を家庭や地域に伝えることにも同時に力を入れていききたい。家庭や地域から理解を得る中で、共に地域の子どもを見守り、成長を促していくことが大切となってくる。

生徒の学習を含めたそれぞれの可能性を伸ばすための時間的、体力的な余白を生むために、本校ではこれまでも行事の精選や日課表の見直しなどを行ってきた。家庭や地域から理解を得ながらこの改善を続けていくことが必要である。これは視点を変わると、教職員の質の高い授業改善にもつながっていく。それは最終的には、生徒の可能性を引き出すことになる。今後も小淵沢中学校の学校教育目標実現に向けて、生徒にとって有益な、そして教職員がやりがいを感じる教育活動を展開していきたい。

令和7年度 小淵沢中学校 学校関係者評価委員会

令和7年2月10日（火）15：20～

令和7年度小淵沢中学校学校運営協議会委員

宮沢 謙市 様	北杜市小淵沢町 4524
今井 哲郎 様	北杜市小淵沢町上笹尾 2888
名取 淳史 様	北杜市小淵沢町 7865-2-302
黒瀬 教史 様	北杜市小淵沢町 7103-10
名取 政義 様	北杜市小淵沢町 994-1
藤森 真貴 様	北杜市小淵沢町 10060-880

※第2回学校運営協議会にて、学校関係者評価委員会を行った。

第2回学校運営協議会 15：20～（会議室）

次 第

進行：教務主任

- 1 はじめの言葉
- 2 学校長あいさつ
- 3 小淵沢中学校の教育について
 - 自己評価について
 - 生徒・保護者アンケートのまとめ
 - 今後の方針，改善策
- 4 意見交換
- 5 その他…今後の予定等
- 6 おわりの言葉

学校関係者評価（学校運営協議会委員からの意見）

○アンケート結果からの意見

- ・評価項目を三者で統一したのは、見やすくなったが、今後も内容の精査が必要である。質問項目によっては、違うものさしになっているものもある。アンケート結果が、より説得力がある形になるようにして欲しい。
- ・保護者の評価が3.0に近いものは、見方を変えると厳しく見ているととれる。「一部改善の必要がある」という視点を大切に、今後もより良い学校教育活動につなげて欲しい。
- ・質問項目の捉え方が人によっても違うのではないか。低い評価ポイントが期待の表れととれる。いただいた意見をもとに、冷静に自己分析することが大切である。
- ・（生徒一人一台端末についての保護者ポイントが低いことに関わって、）授業参観等で生徒の活用状況がわかると、保護者の理解も促進するのではないか。
- ・自己評価については、項目の視点が、「生徒は」の質問項目と、「教師は」の質問項目が混在している。それぞれの視点の質問項目を作ってみてもいいのではないか。

○授業参観等の様子からの意見

- ・「総合」の授業を参観した。発表方法や内容などがよくなってきている。自分で考えて、発表している生徒もいる。普段の授業の様子がよいことがうかがえる。
- ・不登校生徒や不登校傾向の生徒の中で、登校意欲が出てきて、まずは校内支援教室で学校生活を再スタートできるようになってきた生徒もいる。先生方が日々努力していることが、成果となって表れてきていると思う。
- ・授業を見ると、生徒の学習意欲が高まっているように感じた。「楽しさ」を生徒が感じられる学校生活だからこそ、学習意欲が向上しているのではと思う。
- ・学校にある掲示物について、時事問題やその時々に合わせてのものがありとても良い。
- ・勉強よりも、部活動や給食など、別のことに興味関心が強く、なかなか勉強に気持ちが向かない生徒もいることは事実。そのような生徒たちの学習習慣を身に付けさせることはとても大変であると思う。

まとめ

以上のように、全体的には本校教育活動の状況を肯定的に捉えていただいている中で、多面的に見ていただき、参考になるご意見を学校運営協議会委員のみなさまからいただいた。本校の生徒が健やかに育つことに関心を持っており、学習や規範意識について建設的な意見をいただくことができた。学力定着と規範意識の向上について課題があると伝えたが、その課題に対する見方も、全体的には年々向上している中でより充実した教育活動を目指す視点や社会に出て必要となる力を学校で身に付ける活動になっているという視点が意見の中から大切であると感じることができた。来年度も学校運営協議会委員のみなさまに本校教育活動が身近に感じてもらえるような機会を作り、生徒の教育活動のさらなる充実にもつなげていきたいと考える。今年度いただいたご意見を参考に、令和8年度の教育活動を促進させていくよう努めていきたい。